

「科学のマドンナ」プロジェクト



理系女子という言葉をご存じだろうか。最近では、企業やメディアも理系女子に注目している。この言葉を聞く機会も多くなっている。理系の学部に進学する女子も多くなっている。本学でもこの数年は右肩上がりに増えてきており、これからはさらに注目が集まることであろう。そこで、今回は『科学のマドンナ』プロジェクトと理系女子開発プロジェクト・リケチェン！について紹介する。

「男子校」と揶揄されているのをしばしば耳にする本学だが、もちろん共学である。なぜ男子校と言われるのか。第一に「理科」と聞いたときに男性の学問というイメージを持つている人が多いこと、そして第二に訪れた人が、実際に男子が多いという印象を受けるからではないだろうか。全キャンパスの約8割が男子学生で構成されている現状から、そのイメージはあながち間違っていない。さて、本学ではこれらのイメージを払拭し、より多くの

『科学のマドンナ』プロジェクトは、主に「サイエンスを知る」「リサーチを体験する」「プロフェッショナルに目覚める」の3つを念頭において、春夏秋冬に大きなイベントを実施している。春は本学を卒業して企業で活躍している女性による講演会や、女子学生によるトークセッションを神楽坂キャンパスで行っている。夏は大学の実施するイベントでは珍しく宿泊型の科学サイエンス体験を行っており、プロジェクトの中でもメインのイベント

となる。具体的には学生と教員が中心となっており、少人数ごとのチームで模擬実験やフィールドワークを高校生に体験してもらう。昨年までは長万部キャンパスでこのイベントを実施していたのだが、今年度は諏訪東京理科大学に舞台を移し、本学の女子学生が中心となっており、普段接することのない人と同じ時間を過ごすことを目的の一つとしている。加えて、関東を中心とした日本全国からたくさんの方の参加を期待している。秋は野田キャンパスで学園祭と同時にイベントを行う。学長の講演や様々な学部の女子学生とのトークセッションの他、班分けをしての食事や、生物系と工学系の実験といった、キャンパスライフを体験しても

『科学のマドンナ』プロジェクトは、本学の女子の志願者数が増えていることもあり、世間でも注目を浴びている。こういったイベントを通して科学の楽しさは十分伝えられると思うが、本学の学びは楽しさだけでなく、テストやレポートなどに追われる大変さもある。大学側はこのような大変さ、そして苦難を乗り越えた後の達成感も伝えられるようなイベントにしていきたいと考えている。私たち学生も多くの中高生の参加を期待したい。



▲ イベントの様子

『理系女子開発プロジェクト・リケチェン！』(以下、リケチェン!)とは女子中高生を主な対象に、現役理系女子大生の立場から理系の魅力・実態を発信する学生団体である。リケチェン!という名前は理系×チェンジの略称だ。「男子は理系・女子は文系」「理系の勉強は難しい」といったイメージがあるのか、また理系女子はまだ少数派で将来像が見えにくいせいなのか、選択する女子は全体の3割と少ない。そこで、理系に対するイメージを

活動として女子中高生対象のイベントを年に3回ほど主催している。ここでは、女子中高生が女性の社会人や大学生との交流を通じて幅広い選択肢を知り、将来について真剣に考えるきっかけを提供している。例えば昨年の8月は、様々な専攻の理系女子大生と交流して理系の気になると疑問・悩みを解決すると共に、視野を広げてみようという参加費無料のイベントを行った。中高生は異なる世代との関わりが少なくないので、こういったイベントに積極的に参加することで将来について考えるきっかけになるかもしれない。ブログやSNS、フリーペーパー(不定期で都内近郊の中学校や高校に配布)による情報配信も、リケチェン!の重要な活動の一つである。その中で、理系

のバックグラウンドを持つ女性がどのように理系を選択し、人生を歩んできたのか、社会の中でどのように活躍しているのかにスポットライトを当てたインタビューや、身近な科学の豆知識、理系女子の日常などが掲載されており、進路に悩んでいる中高生には嬉しい内容となっている。また、『科学のマドンナ』プロジェクトのイベントに学生スタッフとして参加したり、オープンキャンパスへ参加するなど、より多くの人にリケチェン!を知ってもらえるべく様々な活動を行っている。

リケチェン!代表の北畠さんは「女子中高生にリケチェン!の存在をもっと知ってもらい、様々な選択肢を知ってもらうために活用して欲しい。そして『理系女子』が特別視されることなく一人ひとりが本当に進みたい道に進むようになり、ゆくゆくはリケチェン!の活動の必要性がなくなるのが目標です」と話してくれた。理系女子のニーズが高まっている今、リケチェン!の活躍がますます期待できるだろう。これからの活動に目が離せない。

『理系女子開発プロジェクト・リケチェン！』(以下、リケチェン!)とは女子中高生を主な対象に、現役理系女子大生の立場から理系の魅力・実態を発信する学生団体である。リケチェン!という名前は理系×チェンジの略称だ。「男子は理系・女子は文系」「理系の勉強は難しい」といったイメージがあるのか、また理系女子はまだ少数派で将来像が見えにくいせいなのか、選択する女子は全体の3割と少ない。そこで、理系に対するイメージを

活動として女子中高生対象のイベントを年に3回ほど主催している。ここでは、女子中高生が女性の社会人や大学生との交流を通じて幅広い選択肢を知り、将来について真剣に考えるきっかけを提供している。例えば昨年の8月は、様々な専攻の理系女子大生と交流して理系の気になると疑問・悩みを解決すると共に、視野を広げてみようという参加費無料のイベントを行った。中高生は異なる世代との関わりが少なくないので、こういったイベントに積極的に参加することで将来について考えるきっかけになるかもしれない。ブログやSNS、フリーペーパー(不定期で都内近郊の中学校や高校に配布)による情報配信も、リケチェン!の重要な活動の一つである。その中で、理系

のバックグラウンドを持つ女性がどのように理系を選択し、人生を歩んできたのか、社会の中でどのように活躍しているのかにスポットライトを当てたインタビューや、身近な科学の豆知識、理系女子の日常などが掲載されており、進路に悩んでいる中高生には嬉しい内容となっている。また、『科学のマドンナ』プロジェクトのイベントに学生スタッフとして参加したり、オープンキャンパスへ参加するなど、より多くの人にリケチェン!を知ってもらえるべく様々な活動を行っている。

リケチェン!代表の北畠さんは「女子中高生にリケチェン!の存在をもっと知ってもらい、様々な選択肢を知ってもらうために活用して欲しい。そして『理系女子』が特別視されることなく一人ひとりが本当に進みたい道に進むようになり、ゆくゆくはリケチェン!の活動の必要性がなくなるのが目標です」と話してくれた。理系女子のニーズが高まっている今、リケチェン!の活躍がますます期待できるだろう。これからの活動に目が離せない。

理系 × チェンジ = リケチェン!



▲ リケチェン!メンバーのみなさん

東京理科大学のみなさまが、社会で活躍できるリーダーに成長されることを願っています。

DISCOの就職支援サービス ご利用はすべて無料。いますぐ会員登録を!

CAREER ACADEMY produced by DISCO
<http://www.career-academy.com/> キャリアアカデミー 検索

充実した学生生活を過ごすために。

就職活動の時、問われるのはあなたが「考え抜く力」を持っているかどうかです。勉強・課外活動を両立させながら積んできたさまざまな経験を、自分の言葉でアピールできるかが勝負です。DISCO CAREER ACADEMYは、Business Studyをはじめとしたサービスを通じて、みなさんが充実した学生生活を過ごすための支援をおこなっています。

Business Study 社会で活躍できるリーダーを育成

社会・企業が求める人材像とその背景をより深く理解し、多様な業種・業態のビジネスや、そこで働くビジネスパーソンと直接触れることで、皆さんが自ら考え、行動し、表層的な情報からのイメージではなく、よりリアルなキャリアイメージを持てるような講座を、業界を代表する企業の協賛のもと開催していきます。

日経 就職ナビ 2015
<https://job.nikkei.co.jp/2015/> 日経就職ナビ 検索

日経就職ナビだけが提供できる就職情報で、「ひとつ上の就職」を。

- インターンシップ 情報が満載!**
- 掲載社数 No.1**
※日経就職ナビ2014実績 2013年6月1日時点 企業情報(2014採用予定企業)のみを含む
- 日本経済新聞のニュースが読める 唯一の新卒就職準備サイト**
- 日経ナビ会員限定 大手・優良企業の 秘密コンテンツ**
 日経就職ナビでしか得られない情報を公開している企業がこんなに!
SMBC日興証券、サントリーホールディングス、ジェーシーピー、住友生命保険、西武グループ、損保ジャパン、日本興亜火災、第一生命保険、ダイキン工業、大和証券グループ本社、東京海上日動火災保険、日本生命保険、野村證券、富士通、みずほフィナンシャルグループ、三井住友海上火災保険、三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、明治安田生命保険、ロッテ ほか多数 (2013年12月公開) ※日経就職ナビ2014実績
- 理工系ナビ Science&Engineering**
理工系学生のための情報が盛りだくさん!

※日経就職ナビは日本経済新聞社が主催し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。